



## 歴史

history

昭和36年  
(1961年)

古江―海潟間を延伸開業  
新城・諏訪・柘原・浜平・垂水・海潟の各駅を新設

昭和13年  
(1938年)

古江―串良間の改軌完成  
古江東線と古江西線を合わせて古江線と改称

昭和10年  
(1935年)

大隅鉄道を買収し国有化  
古江―串良間を古江線とする  
古江線を古江西線に改称  
志布志―東串良間を古江東線として開業

大正5年  
(1916年)

南隅軽便鉄道が大隅鉄道に社名変更

大正4年  
(1915年)

南隅軽便鉄道が高須―鹿屋を開業

昭和47年  
(1972年)

海潟温泉―国分間を延伸開業し、全線開通

昭和59年  
(1984年)

第2次特定地方交通線として廃止承認

昭和62年  
(1987年)

大隅線全線を廃止し、バス路線へ転換



さようなら大隅線記念入場券



平成2年解体工事の様子



存続を訴えるパレードの様子

## 概要

overview

※廃線時概要

■路線名 大隅線

■管轄 日本国有鉄道

■起・終点 志布志駅～国分駅

■路線総延長 98・3 km

■軌間 1067 mm

■動力源 ディーゼルエンジン

■軌間

レール幅のことで、私鉄・大隅鉄道から国有化された後、軌間を変更(762mm→1,067mm)する改軌が行われた。



ディーゼルカー

昭和37年頃から廃線する昭和62年までディーゼルカーが活躍。蒸気機関車も昭和50年頃まで使われていた。

## 人々の「想い」を乗せて 走った大隅線

10月14日は鉄道の日

かつて、曾於郡志布志町(現・志布志市)志布志駅から国分市(現・霧島市)国分駅を結び、多くの人々の生活基盤となっていた、鉄道路線「大隅線」。

今回の特集は、10月14日の「鉄道の日」にちなみ、昭和62(1987)年3月14日に廃線となった大隅線の歴史を振り返り、当時の垂水市民にとって大切な交通手段であった大隅線へのさまざまな「想い」を紹介し、利用されていた方々には当時を懐かしみ、大隅線を知らない方々には、その歴史を知り、現在とのギャップをお楽しみいただければと思います。



1 / S47 全線開通式典の様子  
2 / S62 垂水駅と桜島  
3 / S58 垂水駅の朝

■区間 全線単線

単線区間では、駅と駅の間は、1つの列車しか通れません(閉塞区間)。閉塞区間では、タブレット(通票)を持った列車以外は入れなく、列車同士の衝突を防ぎました。



タブレットとタブレット入れ

タブレット(通票)を持った方が閉塞区間に入れる。

■駅数 33駅(市内10駅)



垂水市内の駅位置図